

農業生産資材費低減のための行動計画推進チェックシート(農業機械)

団体名	(社)日本農業機械工業会	作成年月日	平成22年5月27日
		公表年月日	平成22年5月31日
1 行動計画において掲げた取組事項			
取組事項	目標(22年度)	現状(17年)	備考
1. 製造コストの削減			
(1)海外市場開拓等による製造コストの削減	・海外市場開拓等による主要機種(トラクタ、田植機、コンバイン)の生産・出荷台数の拡大	・汎用性が高く、普及率が高いトラクタについて、出荷台数約20万台、うち輸出比率70%	スケールメリットによる製造コスト削減
(2)型式の集約化等による製造コストの削減			
①型式の集約化	・総合メーカー4社の主要機種について型式数を10%集約	・平成17年の仕様型式数(1社平均) トラクタ:536 田植機:156 コンバイン:186	トータルコストの削減を図るため
②部品の共通化等	・規格の共通化を図るため、日農工規格を新たに6規格以上設定するほか部品点数の削減、部品の海外調達を促進	・現在、日農工規格6規格設定、部品点数の削減等について設計段階から随時見直し検討	機種別部会等で検討
③OEMの推進	・各メーカーの販売戦略等により推進	・経営戦略の観点から各メーカーがそれぞれ取組中	生産の効率化によるコスト削減
(3)共同開発によるコスト削減	・メーカーが必要とする機械開発について、生研センターと共同開発	・緊プロ機の開発状況(*注1) 開発:79機種 実用化:46機種	開発コストの削減
2. 担い手向け低コスト支援農機の供給拡大	・全農HELP農機に該当する低コスト支援農機の供給	・全農及び全農機商連への低コスト支援農機の供給	農業経営における減価償却費の低減

3. 修理・整備体制の整備			
(1) 補修部品の安定供給	<ul style="list-style-type: none"> ・機械利用の長期化に対応して、支障がないよう補修用部品を安定的に供給 	<ul style="list-style-type: none"> ・機械利用の長期化を踏まえ、補修部品の安定的な供給を確保するため、17機種について法定耐用年数プラス2～5年年を供給年限ガイドラインとして設定 	機械の長期利用に対処
(2) 補修用部品の即納率の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・即納率95%以上の維持 	<ul style="list-style-type: none"> ・即納率（発注してから1～2日以内に納品）97%を確保 	農作業の適期作業を確保
(3) 点検整備キャンペーンの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・各メーカーが販売・整備業者と連携して実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・各メーカーが販売・整備業者と連携して実施 	ポスターの配布等
4. 情報提供			
(1) メーカーによる製品情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・各メーカーのホームページやカタログ等によるユーザーへの情報提供、展示会の開催等 	<ul style="list-style-type: none"> ・各メーカーのホームページやカタログ等によるユーザーへの情報提供、展示会の開催等 	
(2) 日農工ホームページの拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・広報委員会での検討を踏まえ、内容を拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ・13年3月ホームページ（HP）を開設 業界情報：日農工HP 製品情報：メーカーHPとリンク 	

(注1) 緊プロ機とは、生研センターが「農業機械等緊急開発事業」（5～9年度）、「21世紀型農業機械等緊急開発事業」（10～14年度）、「次世代農業機械等緊急開発事業」（15～19年度）及び第4次農業機械等緊急開発事業（20～24年度）により開発を完了した機械をいい、販売（実用化）機種とは、新農機㈱が「高性能農業機械実用化促進事業」により金型の賃貸事業を行っている機械をいう。

2 各年度の実績及び進捗状況

取組事項	17年度	20年度	21年度
1. 製造コストの削減			
(1) 海外市場開拓等による製造コストの削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要機種の輸出比率 トラクタ：70% 田植機：12% コンバイン：4% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要機種の輸出比率 トラクタ：77% 田植機：22% コンバイン：8% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要機種の輸出比率 トラクタ：69% 田植機：33% コンバイン：6%
(2) 型式の集約化等による製造コストの削減			
① 型式の集約化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各メーカーにおいてトラクタ、田植機、コンバインについての仕様型式数削減を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合メーカー4社で1社平均(17年度対比) 7.5%削減(トラクタ：15.5%、コンバイン：16.1%の仕様型式数を削減、田植機：10.8%増) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合メーカー4社で1社平均(17年度対比) 19.2%削減、トラクタ：23.5%、コンバイン：24.7%の仕様型式数を削減、田植機：1.9%増
② 部品の共通化等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機種別部会で日農工規格の具体策検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農機部品共同購入研究会で共同購入用に2規格を設定するとともに、現地調査等共同購入に関する検討を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農機部品共同購入用に2規格を設定するとともに、現地調査等共同購入に関する検討を推進
③ OEMの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製造コスト削減を図るため、各メーカーの経営戦略により推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各メーカーの経営戦略により推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各メーカーの経営戦略により推進
(3) 共同開発によるコスト削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生研センターとの共同開発により、11機種を開発し、6機種を実用化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生研センターとの共同開発により、11機種を開発し、4機種を実用化、 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生研センターとの共同開発により、11機種を開発し、5機種を実用化、
2. 担い手向け低コスト支援農機の供給拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・ メーカーの低コスト支援農機(全農HELP農機に該当する型式)販売比率 トラクタ：61% 田植機：69% コンバイン：60% 平均：64% 	<ul style="list-style-type: none"> (20年から全農がHELP農機の取組中止) 	同左

<p>3. 修理・整備体制の整備</p>			
<p>(1) 補修部品の安定供給</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、日農工ガイドライン（17機種について、法定耐用年数プラス2～5年）に基づき対応、それ以外でも長期使用に支障がないよう供給 	<ul style="list-style-type: none"> ・同左 	<ul style="list-style-type: none"> ・同左
<p>(2) 補修用部品の即納率の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・即納率（発注から1～2日以内に納品）97%を確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の95%を上回る即納率97%台を維持 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の95%を上回る即納率97%を維持
<p>(3) 点検整備キャンペーンの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各メーカーが冊子、ポスターなどを作成し、販売・整備業者と連携して実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・同左 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前点検整備等キャンペーンの取組内容充実
<p>4. 情報提供</p>			
<p>(1) メーカーによる製品情報の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各メーカーのホームページやカタログ等で提供、各種展示会での紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・同左 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの内容の充実
<p>(2) 日農工ホームページの拡充</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語版を新設するとともに、見やすいように工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・日農工統計等の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・日農工統計等の充実

3 実施状況に対するコメント

(1) 評価

①製造コストの削減

i 海外市場開拓等（生産量の確保）

国内の農機需要は農家数の減少等構造的な問題等に直面し減少基調にある。このため、農機メーカーは、経営の合理化を図るとともに、新規需要の創出と併せて海外市場の開拓等によって生産量の維持・確保に努め、スケールメリットによる製造コストの削減等に努めている。

しかしながら、順調に拡大してきた海外市場も、世界的な不況の影響等から、20年8月以降米国、欧州向け輸出が対前年比で減少に転じ、これが継続していることから、厳しい状況下にある。この結果、21年度については、トラクタについては、出荷台数が約137千台（前年度から65千台減、32%減）、うち輸出台数は94千台（前年度から61千台減、39%減）と大幅に減少し、比率も7割を切り69%となった。

また、田植機は、その輸出比率は33%（約13千台、対前年度比33%増）と増加したが、コンバインは同6%（約1.5千台、対前年度比33%減）と減少した。機種による差はあるものの世界的な不況の影響を大きく受けているが、引き続き海外市場の開拓に努める。

ii 型式の集約化等による製造コストの削減

製造コストの削減を目指して、主要機種（トラクタ、田植機、コンバイン）について、17年度の仕様型式数を基準として、当初5%削減の目標を、20年5月に目標を10%に引き上げ、各社が仕様型式数集約努力等によりその削減に取り組んでいる。

平成21年度は、総合メーカー4社の1社平均で、17年度対比で19.2%削減、トラクタは23.5%減、コンバインは24.7%減、田植機は1.9%増となった。

iii 部品の共通化等によるコスト削減

部品の共通化によるコスト削減を図るため、日農工独自の共通規格設定に取り組んできているが、これまでに加え、平成22年度までに新たに6規格を設定することとしている。

機種別部会等で検討を進め、平成18年度に4規格、19年、20年度は、共同購入用2規格、21年度は同2規格を設定した。

また、部品の海外調達について、当会に設置している海外からの部品の共同購入を検討する農機部品共同購入研究会を通じて、現地調査等共同購入について検討を行っている。

iv 共同開発によるコスト削減

新しい機械の開発コストを削減するため、緊プロ機として生研センターとの共同開発を行っているが、21年度は、11機種の開発に取り組み、5機種実用化した。

②低コスト支援農機（全農HELP農機に該当する型式）の供給

各メーカーは、従来から国内農家が求める高機能で割安感のある「低コスト支援農機」の開発・供給に努めてきたが、経営環境悪化等の影響を受け、平成20年度上半期に価格改定を行った。

これに伴い、全農はHELP農機を取組から除外したため、日農工においても、20年度から当該基準でのデータ集約をとりやめた。

業界としてはこれまでの実績を踏まえ、国内農家の低コスト化を支援する農機供給に引き続き努めている。

③担い手向け大型トラクタの供給

平成21年度の50ps以上の国内向け大型トラクタ出荷比率が前年度（10%）を上回る14%に達し、担い手向け大型機械の供給によって、農業の構造改革の推進に寄与した。

④補修部品の安定供給

機械利用の長期化を踏まえ、補修部品の安定供給体制を確立しているところであるが、ユーザーからの部品注文から1～2日以内に納品する「即納率」95%以上を目標にして取り組んでいる。平成21年度は総合メーカー4社で約488万件の受注に対し、1～2日中に約473万件を納品し、前年とほぼ同様の平均即納率97%となり、目標を達成した。

(2) 対処方針

- 国内市場の減少基調、世界的不景気による輸出の減少等、業界は厳しい状況にあるが、経営の合理化及び新規需要の創出を図るとともに、アジアを中心に海外市場の開拓等に引き続き努める。
- 製造コストを削減するため、さらに型式の集約化、部品の共通化等に努める。
- 国内農家のコスト低減を支援する農機の供給に引き続き努めるとともに、担い手等への大型機械の供給等、多様化する市場ニーズにきめ細かく対応していくこととする。
- 機械の長期使用に対応して、ユーザーによる日常的な点検整備の啓発活動を日農工、メーカーのホームページ等に掲載するとともに、補修部品の即納率の維持向上に努める。

4 特記事項

特になし